

▼アンコンシャスバイアスとは？

私たちは何かを見たり、聞いたときに「無意識にこうだ」と思い込むこと」があります。これを、「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」といいます。このアンコンシャスバイアスは、「相手」に対するものもあれば、「自分自身」に対するものもあります。

例えば、次のように思うことはあるでしょうか？

- 血液型を聞くと、「きっとこんな性格だ」と思うことがある
- 「男の子は〜」「女の子は〜」と思うことがある
- 「親が単身赴任中です」と聞くと、父親を思い浮かべる
- 乳がんは女性が罹患するものだと思う
- 挑戦する前から、「私はどうせムリ」と思うことがある

いかがでしたか？ 何か、思いあたることはありませんか？ どれもあてはまらないという人もいたかもしれませんが、ここにあげたものは、アンコンシャスバイアスになりうるごくわずかな事例です。私たちは、過去の経験や「見

社会と教育の 架け橋 思い込みと教育

「アンコンシャスバイアス」 に気づくことの大切さ ～子どもたちの可能性が 広がることをめざして～



一般社団法人
アンコンシャスバイアス研究所
代表理事 **守屋 智敬**

2018年、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所を設立。企業・官公庁、小・中学校等でアンコンシャスバイアスに関するセミナーを実施。受講者は8万人をこえる。著書に、『「アンコンシャス・バイアス」マネジメント』（かんき出版 2019年）等がある。

聞きしたこと」等に影響をうけて、無意識のうちに、〃きつと、こうだ〃と思い込んでいることや、偏ったモノの見方をしていることがあるかもしれません。お伝えしたかったことは、アンコンシャスバイアスは誰にでもあり、日常にあふれているということです。

▼小・中学校で 授業をはじめたきっかけ

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所は、国・地方自治体・企業など様々な団体からの依頼をうけ、経営者、管理職をはじめとした社会人を対象に、「アンコンシャスバイアスに気づこうとすることの大切さ」をお届けしています。

そのようななか、2021年にはじめて、小学生にアンコンシャスバイアス授業を届ける機会にめぐまれました。これは、小学校6年生を担当する先生から、「子どもたちに、アンコンシャスバイアス授業を実施してもらえないだろうか？」との相談をうけたことがきっかけです。授業後にもらった約100枚の感想文を読み、アンコンシャスバイアス授業は、「自



オンライン授業の様子。240人の児童は、クラウド上で意見を共有しながら、学びを深めた。
(写真：白百合学園小学校提供)

分も含めた一人ひとりを大切にしよう」といった心を育んだり、「SDGsのジェンダー平等、不平等を無くす、平和と公正、パートナーシップの重要性に気づくきっかけ」を提供したり、「自らの可能性を信じるキャリア教育」にもつながることを感じました。このことを機に、これまでに50校をこえる小・中学校での出張授業を提供しています。

▼アンコンシャスバイアス授業について

授業は、2回に分けて実施することを推奨しています(左表参照)。授業時間は、2回とも1コマずつ行っています。対象は小学校高学年以上です。

表 アンコンシャスバイアス授業の流れ



授業では発言が多く、話し合いも活発になっていく。
(写真：郡山ザベリオ学園中学校提供)

<1回目>「アンコンシャスバイアスとは何か?」を知る

導入：自分にもアンコンシャスバイアスがありそうだと感じる体験からスタート。
 展開：「ステレオタイプ」「同調バイアス」等の認知バイアスをヒントに、「私には、どんなアンコンシャスバイアスがあるのだろうか?」を、言葉にしながらい探します。
 終末：用語にとらわれることなく、「これって、アンコン?」を合言葉に、気づこうとすることを大切にほしいと伝えます。
 ※アンコンは、アンコンシャスバイアスの略です

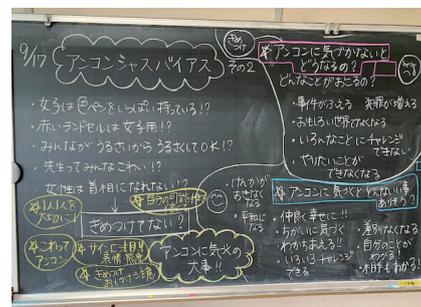
<宿題>(1~2週間：2回目の授業まで)
「私のアンコンシャスバイアス」を探す

<参考：子どもたちが見つけた事例>
 ・料理は女の人がやるものだというアンコンに気づいた
 ・人を見た目で判断していることに気づいた
 ・挑戦する前から、すぐ「どうせムリ」と言ってしまう
 ・看護師は女性、医師は男性と思い込んでいることに気づいた
 ・食わず嫌いもアンコンだと思った 等

<2回目>(1回目の授業から1~2週間後)
アンコンシャスバイアスに気づくことの大切さ

導入：宿題(私のアンコンシャスバイアス)を共有します。
 展開：「アンコンシャスバイアスに気づかずにいると、どんな問題につながるのか?」「気づくとどんなよいことがあるのか?」を考え、話し合います。
 終末：アンコンシャスバイアスに向き合い続けるためのお願いとして、「決めつけない」「誰かと何かと比べない」「自分の可能性を信じよう!」「これって、アンコンを合言葉にしよう」を伝えます。

<感想文>(2回目の授業から1~2週間後) 感想文を書いて提出



小学校での2回目の授業の発問から対話を通して出てきた声。

▼受講した児童・生徒の変化

全2回の授業を終了してから、1~2週間後に感想文を書いてもらいます。少し時間がたって感想文を書くことで、「アンコンシャスバイアスに気づいてからの変化や気づいてよかったこと」を振り返ってもらったことを目的としています。

授業を受けた児童・生徒からの変化の声をいくつか紹介します。多く届く声のひとつが、「一歩

踏み出したいと思った」です。例えば、「アンコンシャスバイアスを知らなかったら自分の可能性を狭めるところだった」「夢をあきらめるのをやめた」「どうせムリと思わずに、まずは挑戦してみようと思った」等といった前向きなものです。

続いて多い声が、「自分の意見を言ってみようと思った」です。例えば、「みんなと違う意見だったとしても、頑張って言ってみよう」と思えるようになった」「これまで、まわりにあわせてばかりいる自分に気づきました」等、自らの言動や行動を振り返り、これまで抱えてきた思い込みへの対処を客観的かつ具体的に述べています。

その他、「友だちとの喧嘩が減った」「親にちゃんと自分の思いを伝えられるようになった」「ク

ラスのなかで、アンコンが合言葉となつて雰囲気がよくなった」等の声もあがっています。

▼先生や保護者からの声

教員研修や保護者講演なども実施していますが、学校によっては、授業参観日にアンコンシャスバイアス授業を実施することもあります。子どもたちとともに、保護者や先生方がアンコンシャスバイアスを学ぶことの効果は大きいようです。保護者からも、先生からも「子どもたちへの決めつけや押しつけが、可能性を狭めていることに気づくことができよかった」との声を多数いただきました。

▼子どもたち一人ひとりの可能性が広がることを願って

アンコンシャスバイアスに気づき、対処していくことは、子どもたちの可能性が広がっていくうえでとても大切だと思います。これからも、一人でも多くの子どもたちに、そして、子どもたちに関わる先生や保護者の方々へ、「アンコンシャスバイアスに気づこうとするこの大切さ」をお届けしていきたいと思ひます。